

「防災学習」は 「命の学習」



岡崎市防災会議委員
(独立行政法人国際協力機構(JICA)防災教育担当専門家)
近藤ひろ子 氏

教育随想



令和元年 5月 1日

5月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市防災会議委員 (独立行政法人国際協力機構(JICA)防災教育担当専門家) 近藤ひろ子 氏	
この人に聞く……………	2
ぶどう農家 内田 秀典 氏	
羅針盤……………	2
道徳科指導員 伴 巨裕	
ふれあい……………	3
新香山中学校 内田 裕斗	
特集……………	4
岡崎の礎を築いた本多家 ～三河武士 本多忠勝から脈々とつながる思い～	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
校歌・校旗披露の会 (平成10年)	
この本を……………	8

岡崎市防災会議委員を拝命して七年になります。愛知県内の小・中学校教員を定年退職後、「名古屋大学減災連携研究センター」に在職していた折に、声をかけていただきました。防災先進市である岡崎市からのオファーということで、喜んでお受けし、「岡崎市PTA連絡協議会」や、「岡崎市校務主任夏季研修会」で、防災の話をする機会をいただきました。また、岡崎市内のいくつかの学校にも訪問し、子供たちにも直接話をする機会をいただきました。防災教育については、教員時代の二〇〇三年より「防災学習」は『命の学習』をテーマに研究・発信をしてきました。以下はその内容です。

◎「防災」は特別なものではない。
・「命・支え合い」の取組(防犯・交通安全・いじめ防止・福祉など)



は、「防災」とリンクしている

◎「防災」には二つの要素がある。
・「命が助かること」「みんなと一緒に生き延びていくこと」

◎「防災」の三つのキーワードを心に留めたい。
・「命(自分の命も他人の命も大切に)」
・「支え合い」「自ら動く」

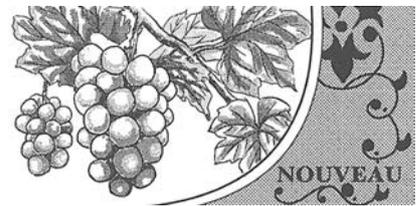
現在、小・中学校で使われている教科書には、防災関連の内容がかなり多く入っています。さらに、来年度から小学校で完全実施される新学習指導要領では、「防災」がクロー

ズアップされています。授業の最後に、「今、この地域にはどんな災害の危険があるのかな」「みんなの家ではどんな備えをしているのかな」という教師の一言で、「子供たちが自ら考え、自ら動く『防災』が始まります。

難しく考えすぎないで、肩の力を抜いて、子供たちの命と笑顔のために、一緒に進んでいきましょう。

(こんどう ひろこ)

この人に 聞く



農業をあこがれの職業に

ぶどう農家

内田 秀典 氏

経営的視点から農業を見直し、持続可能で発展的な農業のあり方を模索する内田氏に話を伺った。

苦労を重ねながら経営を続ける親の姿から、農業についてよいイメージをもてずにいた。大学を卒業してから二年。農業を志すに至る大きな転機が訪れた。

「国立ファームという、ベンチャー企業の高橋社長の講演会に行き、感銘を受けました。講演を聞き、農業にも経営、技術革新などの視点を積極的に取り入れていく必要性を強く感じました。お客様からの信頼を得ると同時に、収入を保ち、農業で明るく生きていくことへのビジョンが見えてきました。」

ぶどう農家を引き継ぐことを念頭

に、国立ファームで四年間働き、経営のノウハウを身に付けた。

「経営といっても、やはり人とのつながりが信頼を生むことを実感しました。国立ファームの野菜は、当時ノーブランドでした。個性ある農産物を求めて九州まで野菜の栽培方法を教えてもらいに行きました。そうして育てたこだわりの野菜を、スーパーの方が認めてくださり、店頭に置いてもらえるようになりました。そこから、スーパーで働く方々にも、もっと他の野菜はないのかと声を掛けていただき、販売の幅が広がりました。信頼関係と販売実績が相乗効果で高まりました。」

その後、岡崎に戻り、家族と共にぶどう栽培、直売に携わる。そこでも、国立ファームでの経験が生かされた。

「国立ファームで学んだ技術と信頼関係の大切さは、ぶどう栽培、販売にも生きています。また、経営について、計画的にやっていく方法が見つかりました。経営の改革を進めると、従業員や家族、お客さんとの関係がどんどんよくなりました。」

ぶどうの木が並ぶビニールハウスを前に、内田氏は続ける。

「うちで販売しているぶどうは全部で三十五種類です。うちは直売で行っているのです、それぞれの種類や販売方法について、お客様の声を直に聴くことができるのが強みです。おいしいから売れるということではなく、お客様の要望に合わせて最適

な販売方法を実現することが大切です。例えば、ぶどうは量り売りが一時的でしたが、一房ずつ値段を明記することで、買いやすさにつながりました。」

販売実績を上げる中、栽培にも経営的観点を取り入れている。

「土づくりは、感覚で肥料の量を決めるのではなく、土壌分析をして正確に決める。そうすると、無駄がなく、長い目で見ると経済的にも結果が表れてきます。事業計画を作り、予算を立て、必要経費を明らかにすることで、五年後、十年後の先が見える経営ができるようになります。農業は長期的なビジョンをもつて取り組め、お客様に喜んでもらえるやりがいを感じられる職業です。将来を担う世代が、農業はカッコいいと思えるような仕事をしていきたいと思うのです。」

次の世代を見つめる内田氏の熱い眼差しに、誇りをもって仕事にあたるプロの姿を見た。



氏名 うちだひでのり
生年月日 昭和五十三年一月十日
住所 岡崎市東阿知町

考える道徳の授業をめざして

道徳科指導員

伴 巨裕

小学校四年生「絵葉書と切手」を題材とし、友情をテーマとした授業でのことである。導入場面において、A先生の「友達の過ちを本人に伝えられるか」という問いに対して、B児は、「私は友達関係が崩れてしまふのが嫌で、なかなか伝えられません」と語った。

続けて、A先生は、子供の生活体験を引き出した上で、資料を読み「葉書の料金不足、あなたなら伝えますか」と問いかけた。子供たちは、伝えるか伝えないかについて、どうしてそう考えるのか理由を示しながら自分の考えを発表した。B児は、他の子の考えを聞き、「本当の友達」とはどんな存在なのか、どうするのかが友達のためになるかを考えたのだろう。「相手を傷つけるかもしれないけど、間違っているままだと、友達のためにならない」と導入とは違





いちばん好きな授業は 総合の時間

新香山中学校

内田 裕斗

四月。緊張感漂う新入生の中、誰より元気のよい挨拶をして登校してくるA男がいた。休み時間には友達との輪の中心となつて過ごしている。順調に中学校生活をスタートさせたように見えたA男だったが、授業中、しばしば表情の曇ることがあり、気にかかった。聞くと「難しい文章を理解するのが苦手」と言う。自信をもって話し合いに参加できないことがあることも分かった。

授業で生き生きと意見を述べるA男の姿が見たい。難しい課題にもひるむことなく学ぼうとする心を育みたい。活動を多く取り入れ、課題を追究する総合的な学習の時間を充実させれば、A男が学ぶ喜びを味わえ

るはずだと考えた。

五月。「生物多様性に学び自然環境との共生を目指す新香山プロジェクト」を開始した。細川学区と奥殿学区で環境に違いがあることを知ったA男に、学区の自然を詳しく調べてみてはと投げかけた。すると、A男は、率先して外来種調査を行い、教室へ戻るやいなや、調査での気付きを夢中になつて語り始めた。「新香山区内にも、外来種が多く存在している」「今と昔では、生態系の違いがあるはずだ」と、自分の気付きを得意気に伝えるA男の姿に、本題材がA男の意欲を引き出したと確信した。

「最近、家の近くで大きなイノシシの親子を見かけた」と獣害被害にも目を向け始めたA男は、ある日の授業で「畑の作物やササユリを食い荒らすイノシシはいない方がいい」と発言した。ところが、A男の意見に対して、学級内から反論があがった。A男は、黙り込み、話し合い後落ち込む姿を見せた。心に灯り始めたA男の学ぶ意欲が、消えかけているように思えた。

次時、学級の生徒たちの視野を広げられるようにと、学区に住む猟師の方をゲストティーチャーとして迎え、話を聞いた。授業後、しし鍋を食べているとき、もっと詳しく話を

聞きたいというA男に、直接猟師の方に意見を聞いてみてはどうかと声をかけると「ぜひ聞いてみたい」と目を輝かせた。しかし、A男は、自分だけが質問に行くことに二の足を踏んでいた。私は、そんなA男の背中をそつと後押しした。猟師の方からは、命を奪う瞬間の心の痛みや、人間の責任について聞くことができた。

次時の授業での話し合いで、「動物も自然も大好きだから、これからは命を守る方法も考えていきたい」と意見を述べたA男に、学級から称賛が送られた。そのときのA男の表情には喜びと自信が表れていた。

自分の考えを相手に伝えることに自信をもったA男は、他教科の学習でも意見を述べるのが少しずつ増えてきている。



う考えを示した。

さらに、過ちを忠告するのか、黙つて相手の思いを大切にするのか。A先生は、主人公の取りうる二つの立場を明らかにして、子供たちにそのときどんな気持ちになるかを役割演技の中で考えさせた。実感を伴う判断を求めたのである。B児は、黙つていればその場の関係はうまく保てるが、相手の過ちを伝えないと、心のもやもやが晴れず、暗い気持ちになることが分かった。B児はこの活動後、「ちゃんと伝えれば、相手が分かってくれると信じる気持ちがとても強くなった」と発言した。

道徳の授業は、「よりよく生きる」ことを実践していく力の源を育てる貴重な機会になる。実際にその立場に立って自分の思いを確かめることが大切である。B児は、授業の終末、「本当の友達とは、本音を言い合える簡単に壊れない関係」「相手のことを思い、信じれば、きっと思いが伝わる」と綴った。ここには、友達との関係を見つめ直したB児の考えの深まりが表れていた。

道徳の時間の中心となる教科書の題材がもつ特徴をどう吟味し、活用するか、教師の腕の見せ所である。子供たちの様々な生活体験、経験との結びつきを見通し、発問や学習活動を工夫していくことが求められる。

岡崎の礎を築いた本多家

～三河武士 本多忠勝から脈々とつながる思い～



徳川四天王の一人として徳川家康に仕えた「本多忠勝」を祖とする本多家は、11代本多家当主忠肅（ただとし）が、岡崎藩主になって以降、明治維新までの約100年に渡り、この地を治めた。

武士としての生き様を説いた本多忠勝の「惣まくり」は、三河武士の信条を象徴的に表したものであり、藩主が代わるたびに披見され、本多家に語り継がれてきた。岡崎市の礎を築き、大きく影響を与えた本多家の「忠義を重んじ、世の中に尽くす心を大切に」思いは、今も脈々と岡崎の地に受け継がれている。



【岡崎城家康館見学】
(矢作中一年)

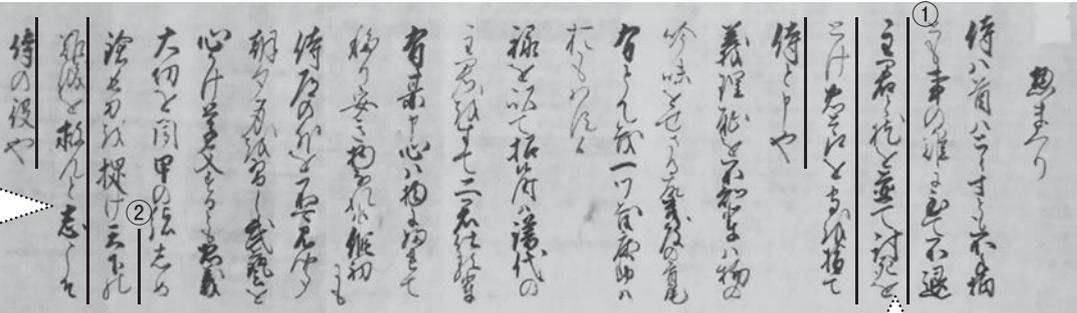


鹿角の協立では、伊賀八幡の宮司が八幡宮の御夢想により作成されたものと言われている。



※「本多忠勝の遺宝」より

① **本多 忠勝**（ただかつ）
「二五四八～一六一〇」



② 天下の
難儀を救はんと志こそ
侍の役也
* 天下の困難を救おうと志
すことが、侍の役割だ

・岡崎市の西蔵前に生まれる。
・桶狭間の戦い、十三歳で初陣。
・徳川四天王の一人で、生涯五十七度の合戦に不敗を誇る名将。



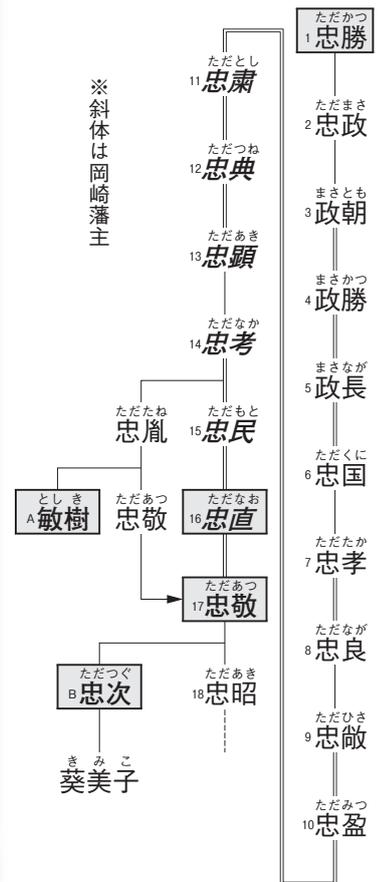
【甲山中校章】

【甲山中学校体育大会 3年男子演武】
校章にゆかりのある忠勝が槍使いだったことから、体育大会のフィナーレで棒術を披露している。

【惣まくり】
家臣に対して「侍としての道」を示した書付
※「本多家の遺宝」より

① 主君と枕を並べて討死を
とけ忠節を守を指す
侍と申也
* 主君に最後まで忠節を守
るものを侍という

本多家系図 (関係分)



① A 本多 敏樹 (としき)
「二八七四〜一九六八」

- 岡崎市名誉市民
- 岡崎市第一代市長
- 図書館新設
- 三島小学校鉄筋校舎建設

① 7 本多 忠敬 (ただあつ)
「二八六三〜一九二〇」

- 岡崎市名誉市民
- 旧郭内地全部を岡崎公園として、岡崎市に寄付。
- 忠勝誕生の地 (西蔵前町) に碑を建立。

① 6 本多 忠直 (ただなお)
「二八四四〜一八八〇」

- 岡崎藩最後の藩主 (十六代)
- 文武を奨励し、「藩校允文館・允武館」を建てる。
- ※岡崎の教師塾「允文館」につながる

【東洋一といわれた
三島尋常高等学校校舎】
(岡崎まちなものがたり
文教と歴史と賑わいの町
三島学区より)

【本多忠勝誕生地碑 (西蔵前町)】

【岡崎藩校允文・允武館跡】の碑
(康生町)

スパンニッシュ様式を基調に、一部チューダー様式を加味した木造2階建ての洋風建築。平成11年、世田谷区にあった忠次邸の取り壊しが計画されたが、歴史的な価値を守るため、岡崎市に建物が寄贈され、再建築された。

【日本多忠次邸 (東公園内)】

【忠次が使用したベッドにデザインされた「葵」】

本多忠次氏ご息女 本多葵美子さん

父の普段の生活はとても質素でした。いざというときのことをいつも考え、質実剛健を目標としていました。子供のころ、父に連れられて本多家の墓参りなどのために、何度も岡崎を訪れていました。次男でしたが、本多家のプライドが感じられました。敗戦で家が接収されましたが、この家を守りたいという強い気持ちから、家を大切に扱ってほしいとマッカーサーに直談判したそうです。また、父の遺品から、「岡崎音頭」のレコードが出てきたことから、岡崎への思いが感じられました。

② B 本多 忠次 (ただつぐ)
「二八九六〜一九九九」

- 忠敬の二男として生まれる。
- 敷地選定から建築基本設計を自身で手がけ、約年かけて住宅を完成させた。

【甲冑を手にする忠次】

【日本多忠次邸見学】

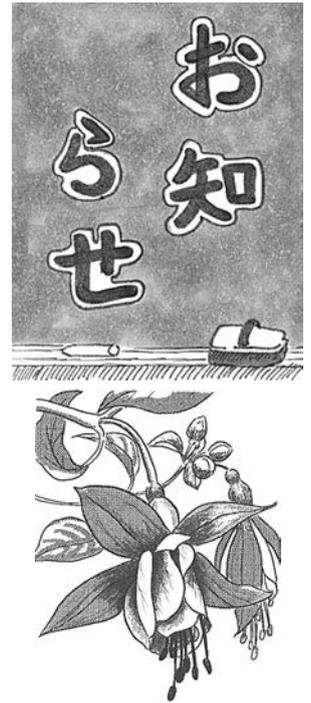
見学をして、理想の家を造ろうとした忠次さんのことが分かりました。和室の客間には、家康の家紋と似た、本多家の家紋がっていました。(南中1年)

岡崎パブリックサービス
主幹 藤原雅人さん

忠勝が書いたと言われる「惣まくり」は、その後の三河武士、そして今の岡崎の質実剛健な気風につながっていると思います。



足腰を低く構え、岡崎市にゆかりのある本多忠勝の勇ましさを表現しました。後輩に憧れられる姿を、伝統として残したいと思いながら演技をしました。(甲山中3年)



◆教科書展示会の開催

県教育委員会では、県民の教科書に対する理解や関心を深めるために、教科書展示会を県内二十九か所の教科書センターで開催する。なお、障がいのある児童生徒の教科書については、愛知県総合教育センターで展示する。

- 展示会場
 - 「岡崎教科書センター」
 - ・岡崎市中央図書館
 - 岡崎市康生通西四一七十一
 - ☎二三一三一
- 展示期間

令和元年六月七日(金)

七月一日(月)

※休館日(水曜日)を除く
○展示教科書

平成三十一年度使用の教科書
○教科書改訂の予定

学習指導要領の改訂に伴い、新たな検定教科書が発行される。令和二年度から小学校で、令和三年度から中学校で新しい教科書が使用される。本年度は小学校の教科書採択が行われる。中学校では、来年度一年間使用する教科書の採択を行う。

●表彰

◆ジュニア管打楽器コンクール(全国)

○クラリネット四重奏
出場 北中学校

○金管八重奏

出場 北中学校

◆第31回中部日本個人・重奏コンテスト(本大会)

○打楽器六重奏

金賞 北中学校

○クラリネット四重奏

金賞 竜海中学校

○金管八重奏

銀賞 北中学校

○管弦打七重奏

銀賞 六ツ美中学校

●平成三十一年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

- 会長 高須 亮平(梅園小)
- 副会長 杉原恵美子(六義北中)
- 都筑 祐一(葵 中)
- 中村 公治(東海中)
- 小嶋 利之(矢作北小)
- 顧問 鳥居 是典(矢作南小)
- 山本 満夫(城北中)
- 本間 茂夫(男川小)
- 和田 実南(中)
- 庶務 清水 範彦(小豆坂小)
- 庶務補佐 永野 光雄(矢作中)
- 小田 昌男(岡崎小)
- 伊豫田 守(竜海中)
- 中野渡善樹(竜南中)
- 会計

少年自然の家だより

自然に還れ

少年自然の家は昭和五十二年に開所された。四十年以上にわたり、自然を通じて子供たちの豊かな感性を育むための体験活動の一端を担ってきた。また、先生方も日常とは違う活動を通じて、子供の可能性を引き出そうと工夫を重ねてその活動を支えてきた。活動の様子を見てみると、マツチを擦ったことのない子供、洗ったことのない子供もいる。そんな彼らが、失敗を繰り返しながら、できた喜びを味わうチャンスが多いのも、この自然体験活動のよさである。先生方にとっても、子供をほめる機会になり、よりよい関係づくりが進むことになる。

昨年夏の猛暑はおそらく開所以来だったであろう。あまりの暑さに身の危険を感じて、冷房設備のある研修室と食堂を利用して子供たちを寝させた団体もあった。「防災訓練を兼ねて」と急ぎよ判断したのは、まさに指導者の臨機応変の好処置であった。山の学習では、自然の不便

さや脅威、人の力では動かせない自然のはるかな大きさを感じさせられることがある。こうした自然への「畏敬」「愛」といった思いを育むとともに、人と自然はいかに共存していくのか、また、人が自然の中でいかに暮らしていくのかを見つめ直す時間にもなるのではないだろうか。様々な情報があふれ、めぐるしきさを感じる現代社会において、少しゆったりと流れる時間は、先生にも子供にも貴重である。本所のキャッチフレーズである「少年よ自然に還れ」は子供たちにとっても先生方にとっても共通の言葉であってほしい。先生が教室では見せたことのない一面を出して、楽しく心豊かな活動になることを願っている。



評議員

畔柳 朋典(美合小) 会計 大西 和夫(矢作北中)
 鈴木 明(竜美丘小) 会計補佐 石川 敏幸(常磐中)
 山本 照司(井田小) <専門委員会>

副 野田 豊(美川中)
 ・教職員の働き方研究委員会
 長 小川真奈美(山中小)

・上地小学校(国語科)
 正しく・深く読む子を育てる国語科の授業

ふるさと宮崎で学び、新しい時代をたくましく生き抜く子供の育成

法 制 児玉 洋行(翔南中)
 教育条件 大西 和夫(矢作北中)
 学級経営 小田 哲也(羽根小)

副 溝口 了実(岩津中)
 ・情報教育推進委員会
 長 本間 茂夫(男川小)

十月三十日(水)
 ・岩津小学校(算理科・生活工)自ら考え、判断し、表現する岩津っ子の育成

・愛知教育大学附属岡崎中学校 十月一日(火)
 ・愛知教育大学附属特別支援学校 十一月八日(金)
 ・愛知教育大学附属岡崎小学校 十一月二十日(水) 二十二日(金)

進 路 荻須 文裕(河合中)
 保 体 野田 豊(美川中)
 福 安 小田喜代美(三島小)

副 小田 哲也(羽根小)
 ・郷土読本編集委員会
 長 山内 貴弘(福岡中)

「IWAZU Style」をもとにした授業づくり
 十一月六日(水)

・愛知教育大学附属岡崎中学校 十月一日(火)
 ・愛知教育大学附属特別支援学校 十一月八日(金)
 ・愛知教育大学附属岡崎小学校 十一月二十日(水) 二十二日(金)

給 食 溝口 了実(岩津中)
 生徒指導 永野 光雄(矢作中)
 特別支援 酒井 洋一(連尺小)

副 熊谷 清一(本宿小)
 ・英語が話せるおかざきっ子研究委員会
 長 柵木 智幸(甲山中)

・龍南中学校(全教科) 教科の見方・考え方を働かせた深い学びの構築
 ・龍南スタイルの授業構想を通して、

・岡崎市教育委員訪問 常磐東小学校 五月十六日(木)
 井田小学校 六月二十七日(木)
 南中学校 九月二十六日(木)
 矢作北中学校 十月二十四日(木)
 福岡小学校 十一月二十一日(木)
 大門小学校 一月二十三日(木)
 六ツ美中部小学校 二月六日(木)

梅田 康典(形埜小)
 野田 豊(美川中)
 中垣 明道(六ツ美中)
 名倉 嘉章(新香山中)
 北村 文啓(額田中)

副 柴田 知子(愛宕小)
 ・授業改善委員会
 長 石原 真吾(大門小)

・自主研究発表 龍海中学校(全教科) わかる学習指導 第11次研究(5年次)
 チャレンジ 龍海式 Active Learning
 ―コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に―
 十一月二十日(水)

・指導員合同訪問 根石小・矢作西小・六ツ美中 六月二十日(木)
 ・緑丘小・細川小・額田中 十一月十四日(木)

●本年度の特別委員会

<小学校長会>

本年度は以下の十二の特別

委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

●本年度の学校訪問

会 長 杉原恵美子(六美南)

委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

副 坂元 干城(六名小)

・学校評価委員会
 長 山本 則夫(六美西)

・岡崎市教育委員訪問 常磐東小学校 五月十六日(木)
 井田小学校 六月二十七日(木)
 南中学校 九月二十六日(木)
 矢作北中学校 十月二十四日(木)
 福岡小学校 十一月二十一日(木)
 大門小学校 一月二十三日(木)
 六ツ美中部小学校 二月六日(木)

副会長 鳥居 是典(矢作南小)

・教育史要Ⅶ
 長 伊豫田 守(竜海中)

・科学の心を育てる委員会
 長 荻須 文裕(河合中)

・教員免許更新特別委員会
 長 長坂 博子(生平小)

・自主研究発表 龍海中学校(全教科) わかる学習指導 第11次研究(5年次)
 チャレンジ 龍海式 Active Learning
 ―コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に―
 十一月二十日(水)

会計監査 近藤 嗣郎(常磐東小)

副 片桐 徹(藤川小)

・教員免許更新特別委員会
 長 長坂 博子(生平小)

・自主研究発表 龍海中学校(全教科) わかる学習指導 第11次研究(5年次)
 チャレンジ 龍海式 Active Learning
 ―コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に―
 十一月二十日(水)

・指導員合同訪問 根石小・矢作西小・六ツ美中 六月二十日(木)
 ・緑丘小・細川小・額田中 十一月十四日(木)

会 計 小田 昌男(岡崎小)

・月報「岡崎の教育」編集委員会
 長 清松 治子(矢作東小)

・教員免許更新特別委員会
 長 長坂 博子(生平小)

・自主研究発表 龍海中学校(全教科) わかる学習指導 第11次研究(5年次)
 チャレンジ 龍海式 Active Learning
 ―コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に―
 十一月二十日(水)

・指導員合同訪問 根石小・矢作西小・六ツ美中 六月二十日(木)
 ・緑丘小・細川小・額田中 十一月十四日(木)

<中学校長会>

副 手島 英樹(下山小)

・教職員の研修に関する委員会
 長 倉地 耕治(豊富小)

・自主研究発表 龍海中学校(全教科) わかる学習指導 第11次研究(5年次)
 チャレンジ 龍海式 Active Learning
 ―コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に―
 十一月二十日(水)

・指導員合同訪問 根石小・矢作西小・六ツ美中 六月二十日(木)
 ・緑丘小・細川小・額田中 十一月十四日(木)

副会長 中村 公治(東海中)

副 倉地 耕治(豊富小)

・教職員の研修に関する委員会
 長 倉地 耕治(豊富小)

・自主研究発表 龍海中学校(全教科) わかる学習指導 第11次研究(5年次)
 チャレンジ 龍海式 Active Learning
 ―コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に―
 十一月二十日(水)

・指導員合同訪問 根石小・矢作西小・六ツ美中 六月二十日(木)
 ・緑丘小・細川小・額田中 十一月十四日(木)

会計監査 荻野 卓寛(北中)

・学校教育活動研究委員会
 長 小田 昌男(岡崎小)

・学校教育活動研究委員会
 長 小田 昌男(岡崎小)

・学校教育活動研究委員会
 長 小田 昌男(岡崎小)

・学校教育活動研究委員会
 長 小田 昌男(岡崎小)

庶務 永野 光雄(矢作中)

長 小田 昌男(岡崎小)

○市委嘱研究発表校

○市委嘱研究発表校

○市委嘱研究発表校

・カ
ツ
ト
井田小
岩田恵子

校歌・校旗披露の会 (平成10年)

写真提供：六ツ美西部小学校

六ツ美西部小学校は、六ツ美北部小学校の過大校解消に伴い、平成九年四月に誕生した。校歌のないまま開校され、翌年三月に作詞家、作曲家を招いて正式に校歌が披露された。その校歌にある「人に優しく自分に強く」という言葉が、昨年の開校二十周年記念に校訓として制定された。

月日が経ち、学校周辺の風景やそこに暮らす人々も様変わりしたが、校歌には、郷土の自然、学校や子供たちに対する思いや願いが込められている。今一度、歌詞に込められた郷土の自然や当時の人々の思いをかみしめたい。



特別の教科 道徳は、生活科以来の新たな教科となった。平成の三十一年間、教科や評価方法など、時代の要請に応じて、教育は大きく変化した。令和の時代でも多くの変化があるだろうが、子供の健やかな成長を願う教師の思いは変わらない。

本質を示した「惣まくり」から忠勝の武士としての生き様が伝わる。忠勝の時代から続く三河武士の質実剛健の気風は、岡崎のために尽力した忠敬や忠直らに受け継がれていた。歴史を踏まえ、ふるさとを大切に作る気持ちを育てていきたい。

と ホ ツ

臯 目



熱い気持ちを声に乗せて
(平成30年度 中学校総合体育大会)

次の世代が活躍できる社会を目指すのは、教師も農家も同じである。社会人として子供たちに働く姿を見せることは、仕事へのやりがいや働くことのすばらしさを示すことである。子供がやりたいことを見つけ、実現させていくための手本になりたい。



* 南相馬10日間の救命医療 太田圭祐
時事通信社 ￥1,400

心に残った一文

息はあるがそのまま霊安室に運ぶように指示した患者の顔は、今でもはっきりと覚えている。

医師、看護師、医療スタッフが、地震、津波に加え、原発事故の最前線で戦った10日間の記録である。病院現場の事実が淡々と語られているが、その言葉は重い。

心の準備はない。入院患者の安全確保、次々と運び込まれる被災者の対応、その全てが突然に降りかかった現場の状況に、読者も引きずり込まれる。

迷いつつも家族との避難を選択する職員と留まる職員。両者の信頼関係に、私は心を打たれた。人と人のつながりが、現場を強くするのである。

* 先生がつぶれる学校、先生が生きる学校 妹尾 昌俊
学事出版 ￥1,800

* 山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた
山中 伸弥・緑 慎也
講談社 ￥800

* 悲しみは真の人生の始まり 柳田 邦男
P H P ￥1,200

河合中 荻須 文裕